

## 平成 20 年度 県立美浦養護学校（特別支援学校）自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆児童生徒一人一人の心身の発達，障害に応じた適切な教育活動を行い，もっている可能性を最大限に伸ばし社会の中でこころ豊かにたくましく生きる力を育成する。 ○一人一人が安心して生き生きと楽しく学べる学校 ○健康で安全に学校生活ができ，清潔で整備された学校 ○保護者，地域から信頼される開かれた学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
○「個別の指導計画」と通知票の一本化を実現することができた。活用と評価の在り方が今後の課題である。	1 学校分掌組織の改善充実を図り，効率化を推進する。	①会議の精選，効率化，スリム化を図る。 ②組織化した分掌体制による業務遂行と責任の明確化を図る。	A
○「個別の教育支援計画」の作成を実施した。関係諸機関と連携し，活用していくことが今後の課題である。	2 安心・安全な学校の体制づくりをする。	①児童生徒及び教職員の事故防止と安全対策を講じる。 ②医療的ケアを要する児童生徒に対する安全なケアの実施と事故防止に努める。 ③言語環境や環境美化等の教育環境の整備に努める。 ④学校危機管理マニュアルの活用を図り，安全安心な学校づくりをする。	A
○危機管理マニュアルの見直しを行い，「安全管理マニュアル」としてまとめた。更に活用し，見直しをしていくとともに危機管理意識を高めたい。	3 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育的支援を推進する。	①「個別の教育支援計画」の活用を図り，教育的支援を推進する。 ②「個別の指導計画」の作成及び通知票と一体化した適正な評価を実施する。 ③児童生徒一人一人のニーズに応じた自立活動を推進する。 ④障害の多様化，重度重複化に対応した効果的な指導法の研究と教育課程を検討する。	A
○地域支援センター室を設置した。センター室の整備と活用については，今後の課題である。地域の支援要請を受け，様々な相談・支援に対応することができた。「地域支援マップ」の作	4 児童生徒の一人一人の能力や特性等に応じた進路指導を推進する。	①保護者及び福祉・労働等の関係機関と連携した進路指導に努める。 ②学部間の系統性を踏まえた計画的・段階的な進路指導を推進する。 ③「個別の移行支援計画」の活用と実施を進める。 ④作業学習や現場実習等の充実に努める。	A
	5 地域における特別支援教育のセンター的機能を一層推進する。	①地域支援センターの整備と活用等を図り，校内支援体制を一層充実させる。	A

成, 「地域連携だより」を発行した。情報の更新を図っていくことが課題である。			②関係諸機関との連携を密にしたネットワークづくりに努める。 ③地域の障害のある乳幼児・児童生徒等に対する相談・支援を一層推進する。 ④教材教具の貸し出し及び教育情報の発信を積極的に進める。			
○各地区ごとにPTA地区活動が活発に展開された。地区ごとに行政との連携も活発化している。更に深めていくことが課題である。		6児童生徒の地域における豊かな生活づくりを積極的に支援する。	①保護者・学校・地域間の連携及びPTA活動を積極的に推進する。 ②地域で生きる, 地域で育つための「交流及び共同学習」を一層推進する。	A		
スクールサポーター制度を立ち上げることができた。広報活動を継続しながら, 教育活動等に積極的に活用していくことが課題である。		7地域に開かれた学校づくりを推進する。	①スクールサポーター制度の充実を図り, 教育活動等に積極的に活用する。 ②学校自己評価・外部評価を活かした学校運営等の改善を進める。	A		
○高等部では, これまで実施していた部活動に文化部を加えた。また, 中学部では新たに課外活動を開始することができた。さらに充実発展させていくことが課題である。		8児童生徒の体力づくり等を推進し健康の維持増進を図るとともに, 余暇活動の充実に努める。	①学部, 学年等の実態に応じた体力づくりに努める。 ②将来を見据えたスポーツ活動や文化活動等の部活動を積極的に推進する。 ③「食」に関する指導を研究・実践する。	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価		次年度(学期)への主な課題
教務	学校組織の充実を図り, 効率化を推進する。	会議等効率的な運営をする。	①	A	A	・会議を開く回数は必然的に増えているので, より一層の効率化が必要。
		議題を明確化し, 会議の時間短縮を図る。	①②	A		

地域 連携 支援	地域支援センターの整備 と活用等を図り、支援体 制を一層充実する。	地域支援センター「支援・教育相談案内」リーフレットを作成し、配付する。（4月末） ①② 地域支援センター活動案内をホームページに掲載する。 ①② 「地域特別支援教育研修会」の開催（8月・12月） ①②	A A A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配付先の検討を行う。</li> <li>・内容のわかりやすさ、正確さ、読みやすさ、読み手のことを考えた構成などを考えて掲載する。</li> <li>・アンケート等を基に、より地域のためになる研修の内容を検討する。</li> </ul>
	関係諸機関との連携を密 にしたネットワークづく りに努める。	「地域特別支援教育コーディネーター会議」を開催する。（8月） ②	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・より効率的で、効果的な本会議の運営の仕方について検討する。</li> <li>・幼稚園、高等学校のコーディネーターが加わった時の本会議の運営の仕方を検討する。</li> </ul>
	地域の障害のある乳幼 児・児童生徒等に対する 相談・支援を一層推進す る。	要請者が納得のいく誠意ある対応を心がけ、実践する。 ③	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・要請内容についてどこまで対応していくか吟味する。</li> </ul>
	教育情報の発信を積極的 に進める。	「地域連携だより」を発刊し、ホームページに掲載する。（10月、3月） ②④ 改訂版「相談・支援機関案内マップ」の発刊（7月） ②④	A B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域連携だより」、 「相談・支援機関案内マップ」の必要性及び有効活用について検討する。</li> </ul>
	教材教具・図書・検査器	特別支援教育関連図書の追加補充 ①	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在ある図書、新しく入ってきた教</li> </ul>

	具の貸し出しを積極的に進める。				材，検査器具等を整理し，使い方も含め校内，校外への周知の仕方，活用の仕方を検討する。
渉外	地域との連携を図り，児童生徒の休日や長期休業の過ごし方を支援する。PTA活動の推進や，連絡調整を行い，活発な活動ができるようにする。	スクールサポーター制度の推進と活用を図る。 ①	B	B	スクールサポーター制度を立ち上げ2年目を迎えたが，地区活動への支援者が増えなかった。また，すでに登録してくださっているサポーターを活用することができなかったので，来年度は積極的に活用したい。また，地域のボランティア団体との連携については，地区によって偏りがあるので改善に努める
		地域の諸機関，ボランティア団体との連携を深める。 ①②	B		
		保護者と学校との連携を図り，PTA活動への支援をする。 ①	B		
研究 研修	各研修の連絡調整を行い活発で充実した研修ができるような体制づくりに努める。児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した効果的な指導法について実践的な研修を深める。	学部テーマに基づいた学部研修の計画と推進に努める。 ③④	A	B	・各学部、学年ともそれぞれの研究課題を設定したことで日々の実践とのつながりを持たせた研修ができ良かった。また学部の計画であっても内容によって全体研修会の計画で行った。次年度も継続
		「個別の指導計画」の活用を図り，より個に応じた指導の充実に努める。 ①②	B		

		障害の多様化・重度重複化に対応した効果的な指導法についての研修を深める。③④	B		<p>したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標設定、実践、評価が一体化した個別の指導計画を作成した。課題の設定や評価のあり方、内容については引き続き検討を重ねる必要がある。</li> <li>・各学部とも教育課程や指導内容についての検討を重ね実態に合わせた指導に努めているが、適切な職員数で指導体制がとれないこともあり難しいところである。肢体不自由児童生徒の指導についてはOT、PTなど外部講師の助を積極的に受けるようにした。また「自立活動」についての研修も始めた。継続したい。</li> <li>・マルチメディアのよりいっそうの活用に向けての研修をさらに継続したい。</li> </ul>
		研修のまとめとして、実践報告集を作成し、実践の積み上げを図る。④	B		
		授業の中でパソコンや、ネットワークを使えるようにするための研修を推進する。④	A		
生徒指導	安全・安心な学校の体制づくりを推進し、児童生徒の安全確保に努める。	スクールバス運行時の交通安全対策に努める。①	A	A	号車担当が、バスの乗務員と積極的に日ごろの情報交換を行ったことで、諸問題を把握し、対処することができた。来年

					度も継続したい。
		登下校時における交通安全対策に努める。	①③	A	登校時，バスが駐車場に入ってくる時やバスがバックする時などの安全確認を必ず行うようにした。 (係2人で)来年度も継続したい。
		児童生徒の緊急捜索体制の確立に努める。	④	A	昨年度見直しを行い，その体制に合わせて職員による練習を行った。特に問題もなくスムーズに訓練が実施できた。
		不審者に対する緊急対応体制の充実を図る。(不審者対応訓練の実施)	①	B	防犯訓練では，職員対象にマニュアルに沿って実施した。次年度は，児童生徒の避難等も視野に入れた訓練を実施してはどうか。
		特別活動の計画・運営・指導の充実を図る。	③	A	部活動や児童生徒会選挙などの行事運営を考慮すると，担当人数の増員をお願いしたい。(小2名、中2名、高3名が理想である)
進路指導	一人一人の児童生徒の実態に応じた進路指導を推進する。	将来を展望した家庭及び福祉・労働等の諸機関との連携の在り方を探る。	①④	A	A 卒業後の移行をスムーズに行えるよう、関係諸機関と連携することができた。今後も個別移行支援計画などに活かした
		学部間の系統性を踏まえた計画的・段階的な進路指導を推進する。	②	B	

		高等部においての「個別移行支援計画」の作成と改善に努める。 ③	A		がら継続して密な連携をしていきたい。
保健指導	児童生徒の健康の保持・増進を図るとともに「食」に関する指導の実践を図る。	事故のないように安全な環境づくりに努めるとともに、緊急時の対応についての周知を図り、ヒヤリハット等の蓄積等を通して、重大な事故を防ぐようにする。 ①②	A	A	職員間の共通理解を図りながら、緊急時の対応マニュアルに沿った安全な対応ができるよう心がけてきた。  食に関する年計を作成し、栄養士との連携した授業もおこなった。
		食に関する指導の年間計画を作り、栄養士及び担任による食に関する指導の推進を図る。 ③	A		
事務	地球温暖化対策として、学校運営でも環境保全に取り組む。	電気料等の高熱水費の削減、印刷物及びコピー枚数の削減、物品調達に関してはグリーン購入法適合商品・エコマーク商品等に努める。 ②	A	A	来年度は、電気使用量を監視するためデマンドコントローラを設置し、より一層の削減に努める。
小学部	集団生活やいろいろな生活体験をとおして、社会参加の基礎となる様々な力を育てる。 一人一人の児童がもつ能力や可能性を伸ばし、健康の保持・増進、基本的な生活習慣の確立に努める。	①体力づくりと健康の保持・増進に努める。 【重点目標 8】	B	B	個々の実態や発達段階をおさえながら日々の支援、指導を積み重ねてきたことにより、児童がもつ能力や可能性を伸ばすことができた。しかし、より一人一人に応じたきめ細かな指導をしていくには、限られた人員・環境の中でどのような改善や工夫が必要か、学部全体で検討していきたい。
		②基本的な生活習慣の確立を図る。 【重点目標 8】	B		
		③児童の実態に応じた指導内容の吟味と支援の工夫に努める。 【重点目標 3】	A		
		④障害の特性に応じた個別の指導計画を活用し、指導に活かしていく。 【重点目標 3】	B		
		⑤担任や、友達と相互にかかわり合いながら、より質の高い豊かな生活を目指す。 【重点目標 6】	B		

第1 学年	活動を通していろいろなものへの興味・関心の幅をもたせ、楽しんで自分から活動しようとする意欲や主体性を育む。	一人一人の子どもの興味・関心や発達段階を考慮した学習内容や教材の工夫，適切な支援に努める。 ① ③	B	A	より一人一人に応じた指導を考えるときには，教員の人数が不足している。より良い指導を行うためには，教員の増員を望む。 普段から，児童とのコミュニケーションを丁寧に行うことで，児童の意思表示など伝える気持ちが高まってきた。また，子ども同士のかかわりも育ってきた。引き続き，大切にしていけると良い。
	教師や友達との関わり合いを豊かに育てながら，人や物に働きかける力を育む。	教師や友達との楽しい経験を積み重ねながら共感関係を育て，子どもたちが自ら進んで活動する意欲をもたせるような工夫をする。 ①③	A		
	豊かな感情を育み，自分の気持ちや要求を言葉や身振りで伝える力を高める。	一人一人の発達課題や，障害の特性を考慮した適切な働きかけや指導を進め，それぞれの目標達成ができるようにする。 ②	A		
	一人一人に応じた基本的生活習慣の確立を図る。	家庭との連携を密にし，保護者の願いを大切にしつつ，子どもの発達段階に沿った取り組みがともにできるようにする。 ②	A		
第2 学年	様々な活動をとおして興味・関心の幅を広げ，楽しんで自分から活動しようとする意欲や主体性を育む。	一人一人の子どもの興味・関心や発達段階を考慮した学習内容や教材の工夫，支援の仕方の工夫に努める。 ③	B	A	・子どもの興味，関心を引くような教材の工夫に努めたが，体育などでは，実態の差が大きいため，学習形態などの工夫が必要であった。 ・子ども一人一人の気持ちを大切にしながら共感し，表現する方法を工夫して取り組んできた。一人一人が様々な表現で自分の気持ちを伝えられるようになって
	教師との共感関係を豊かに育てながら，人や物に働きかける力を高める。	教師と一緒に楽しく活動し，喜びを共有し合うことで，子どもたちがいろいろな活動に自分から楽しんでやりたいと思ったり，人と一緒に活動する楽しさを感じとったりできるように努める。 ③⑤	A		
	豊かな感情を育み自分の気持ちや要求を言葉や身振りで伝える力を育む。	一人一人の発達段階や，障害の特性を考慮した「個別の指導計画」をもとに，適切な働きかけや指導を進め，それぞれの目標が達成できるようにする。 ③④⑤	A		

	一人一人に応じた基本的 生活習慣の確立を図る。	連絡帳や、面談、電話連絡等で家庭との連携を密にし、保護者の願いを大切にしつつ、 子どもの発達段階に沿った取り組みが共にできるようにする。 ②	A		きつつあるので、更 に工夫しながら指導 していきたい。
第3 学年	様々な活動を通して、興 味・関心の幅を広げ、楽 しんで自分から活動しよ うとする意欲や主体性を 育む。	一人一人が学習の喜びと、充実感を感じられるように子どもの興味・関心や発達段階を 考慮した学習内容や、教材の工夫に努める。 ③⑤	A	A	今年度は子どもの発 達段階に応じた指導 が徹底できた。来年 度も今と同じ質の教 育を保障するため には、現在と同じ教員 の人数が必要。 コミュニケーション については、学年の テーマとして取り組 んだ結果、要求や気 持ちを伝える力が育 ってきている。来年 度も継続して取り組 んでいきたい。
	友達や教師とのかかわり 合いを豊かにし、集団と しての意識を高める。	子どもたち一人一人が明るく楽しく活動できるクラスづくりに努めると共に集団性を意 識した学習活動を大切にする。 ③⑤	A		
	豊かな感情を育み、自分 の気持ちや要求を伝える 力をつける。	一人一人の発達課題や、障害の特性を考慮した適切な働きかけや、活動をすすめる、それ ぞれの目標が達成できるようにする。 ③⑤	A		
	一人一人に応じた基本的 生活習慣の確立を図る。	家庭との連携を密にし、保護者の願いを大切にしつつ子どもの発達課題に沿った課題に 取り組む。 ②④	A		
第4 学年	心身の健康の保持・増進 を図る。	一人一人の発達課題や、障害特性を考慮した適切な指導支援を進め、それぞれの目標が 達成できるようにする。 ①	B	B	きめ細かな観察とと もに認知プログラム も導入し、発達課題 や障害特性に応じた 働きかけをすること ができる程度できた。 また、一人一人の好 きな物や学習課題等 をイメージしながら 内容や教材を構成す るよう努めた。 しかしながら、重度 重複障害を持った児 童が多い実態から考
	友達や教師とかかわり合 いを大切にし、豊かな感 情を育てるとともに、集 団の一員としての意識を 高める。	担任間や、家庭及び医療との連携を大切にし、児童の発達課題に沿った支援を共働して 行う。 ①④	B		
	見分ける力・聞き分ける 力・コミュニケーション の力を育てる。	児童が充実感を感じられるように、学習内容や教材場面設定などの工夫に努める。 ③	B		

	個々に応じた基本的生活習慣の確立を図る。	楽しく安心できるクラスづくりに努め、児童が主体的にのびのびと行動できるようにする。 ②	B	えると可能性を引き出すための人手が足りない点を痛感せざるを得なかった。安全確保だけで精一杯の時間帯も多々あった。 医療機関との連携はかなり達成できた。保護者との連携も一層密にし、支援を高めていきたい。
第5学年	様々な活動を通して、興味・関心の幅を広げると共に、友達や教師とのかかわりを豊かにし、集団的な活動に発展していくようにする。	一人一人の発達課題や障害の特性を考慮した適切な働きかけや指導を進め、それぞれの目標が達成できるようにする。 ③⑤	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美養祭の発表や校外学習など、それぞれの実態に応じた目標を設定して行った。</li> <li>・主体的に行動できるように実態に合った支援を工夫して取り組んだ。</li> <li>・個に応じたコミュニケーションを引き出す場面を意図的に設定するなど共通理解を持つてすすめることができた。</li> <li>・担任間での話し合いをすることで、児童の共通理解を図りながら、支援を行うことができた。</li> <li>・医療機関に医療相談に行くなど連携して行うことができ</li> </ul>
		明るくて楽しく、安心できるクラスの雰囲気づくりに努め、児童が主体的に伸び伸びと行動できるようにする。 ⑤	A	
	豊かな感情を育て、個に応じたコミュニケーションの力を育てる。	学習の喜びと充実感を感じられるように、児童の意欲や期待を大切にしながら学習内容や教材、場面設定等の工夫に努める。 ③⑤	A	
	個々に応じた基本的生活習慣の確立及び健康の保持・増進を図る。	担任間の話し合いを丁寧に行い、子どもの発達課題に沿った指導を共通に進められるようにする。 ②③	A	
家庭との連携を密にし、保護者の願いを大切にしつつ、発達課題に沿った取り組みができるようにする。また、医療機関と連携を図りながら指導にあたる。 ①②		B		

					た。
第6学年	児童の主体的な活動と、児童同士のつながりを豊かにし集団的な活動につなげていく。	一人一人の発達課題や障害の特性を考慮した上で、適切な働きかけや指導を進め、それぞれが達成できるようにする。 ③⑤	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任間での話し合いを密に行ながら、個別の指導計画をもとにした指導の充実に努める。</li> <li>・視覚的に理解しやすい教材や児童の活動を多く取り入れた学習活動の充実に努める。</li> <li>・連絡帳・電話連絡・個別面談を通して、今後も保護者と共通理解を図ることができるよう努める。</li> </ul>
		学習の喜びと充実感が得られるよう、活動への意欲や期待を大切にしながら、学習内容や教材の工夫に努める。 ③⑤	B		
	豊かな感情を育て、個に応じたコミュニケーションの力を育てる。	担任間の話し合いを密にし、児童に対する働きかけや指導について共通理解を図る。 ③⑤	B		
	基本的な生活習慣の確立及び健康の保持増進を図る。	家庭や医療機関との連携を密に図りながら、児童の発達段階に沿った取り組みができるようにする。 ①②	B		
中学部	一人一人の障害の状態や、特性及び発達段階を踏まえた学習指導の実践に努め、意欲的に活動する生徒を育てる。 集団生活や生活体験を通して、それらへの関心を高め、主体的に生活する力を育てる。	①個別の指導計画の活用、評価の工夫を通して一人一人の実態に応じた指導内容の精選と支援の工夫に努める。 【重点目標3】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>①より具体的な指導内容の設定。</li> <li>②学年の生徒の実態に添ったバランスのとれた計画の設定。主体的に活動することができるための手立てに基づいた実践。</li> <li>③障害の重度重複化に対応した教育課程の検討。</li> <li>④今年度、見直しを図った進路指導の方</li> </ul>
		②校外学習や、作業学習、総合的な学習の時間等の計画的な実施と指導内容・方法の工夫に努め、社会生活に必要な基礎的知識・技能・態度の習得を図る。 【重点目標4】	A		
		③障害の重度重複化・多様化に対応した指導法について研修を深め、自立活動を充実させるとともに、教育課程等を検討する。 【重点目標3】	B		
		④個に応じた基本的な生活習慣や、作業態度の育成を図るとともに、施設や工場見学を含	A		

		む系統立てた進路指導の充実を図る。【重点目標4】			針に添って実施する。 ⑤生徒の実態に応じた交流内容の吟味及び検討。
		⑤生徒についての理解が深まるように地域や学校間での交流の充実を図る。【重点目標6】	A		
第1学年	個に応じて日常生活に必要な基本的な生活習慣及び身辺処理能力を高める。	思春期の特性に配慮し、中学生らしい生活環境づくりに心がける。あいさつ、返事、身だしなみ、整理整頓などの定着を図る。①④	B	A	個別の指導計画に基づき、保護者・担任間の共通理解を図りながら、生徒個々の目標達成に近づくための支援・指導を進めてきた。手だてに工夫・改善は見られるが、さらに見直していきたい。
	日常生活に必要な基礎的な学力を高める。	障害等に関する理解を深め、個に応じた指導や支援の仕方を工夫する。①③	B		
	様々な活動に参加し、互いに認め合いながら、学び合い、集団の中で生活していく力を育てる。	多様な集団形態を設定し、友達関係を広げながら、人とのかかわりを深め、協力する態度を養う。①②	A		
	活動全般を通して、健康な身体づくりと体力の向上に努める。	身体を動かす時間を多く設けるよう配慮し、身体づくりに努め、運動能力の向上を図る。①	A		
第2学年	日常生活に必要な基本的な生活習慣や身辺処理能力を高めるとともに、健康的な生活が送れるようにする。	個に応じたあいさつや返事、身だしなみ、整理整頓、健康などについて自分でできることを増やしていく。①④	B	A	本学年は、車椅子を利用している生徒2名を含め障害が多種にわたっている。今後も生徒ひとりひとりの実態に応じた指導をしていくことが必要である。
	日常生活に必要な基礎的な学力や自然、社会への興味関心を高める。	障害等に関する理解を深め、発達段階や特性に応じた指導ができるように支援の仕方の工夫や教材・教具の工夫を図る。①③	A		
	様々な活動を通して、いろいろな人(友達、教師)と豊かにかかわり合う力を育てる。	友達や教師とのかかわりを深められるように場の設定や言葉かけ等を工夫し、一人一人がもっている力を高められるような学習活動の場の設定に配慮する。①②	A		

第3学年	個に応じた基本的な生活習慣の確立を図るとともに健康的な生活を送れるようにする。	生徒一人一人の障害や課題を考慮した適切な支援や指導を進め、一人一人の目標が設定できるようにする。 ②④	A	A	本学年は自閉的傾向の生徒が多いため、高等部進学の際には落ち着いた環境作りが求められる。集団を意識して行動する力や他者に働きかける力が、徐々にはぐくまれてきている。引き続き支援したい。
	様々な活動を通して、人や物に興味関心をもち、課題や活動に意欲的に取り組めるようにする。	保護者との連携を密にし、生徒の実態と課題について共通理解を図りながら、指導を進める。 ④	A		
	日常生活に必要な基礎的な学力を高める。	友達や教師とのかかわりを楽しみながら、集団生活の中で、それぞれの生徒が力を高めたいけるような学習活動を工夫する。 ①	B		
訪問教育	心身の健康の維持増進を図る。 一人一人の疾病や傷害の特性、発達段階や生活環境を踏まえて生活経験の拡大に努め、社会性を養う。	健康状態の適切な把握と保護者や医療機関との連携を図る。 ①	B	B	保護者からの聞き取りや医療相談を通して、連携に努めた。次年度においても、身体の状態などは日々変化しているので、医療相談における情報交換を行えると良い。時期については、できるだけ早い時期に行えると良
		学習中のポジショニングの工夫 ③	A		
		身近な人や、事物・事象とのかかわりを意識して生活経験の拡大、及び社会生活を意識し指導内容の作成と実践に努める。 ①	A		

		<p>児童生徒一人一人の疾病や障害の特性，また，発達段階の他，生活環境に応じた指導内容の選択と指導方法の工夫に努める。また，進路について考える機会も設ける。（中学部訪問） ③</p>	B	<p>い。</p> <p>各児童・生徒の発達段階や生活環境に応じて，教材・教具の工夫をすることがおおむねできたと思われる。</p> <p>スクーリングについては児童・生徒の体調や内容を吟味し，推進する事ができた。</p> <p>しかし，実施が難しかったこともあるので，手紙や作品作りなど所属する学年との連携を図りながら，間接的に交流をもつ機会を増やしていきたい</p>
		<p>集団生活への参加（スクーリング）や社会生活への参加を意識して活動する。 ①</p>	B	
高等部	<p>一人一人に応じた社会自立に必要な生活能力を身につけさせ，将来社会の一員として生きがいを持ち生活できる力を育成する。</p>	<p>①発達段階や，特性に応じた学習形態や学習グループの編成，指導内容・方法の工夫と実践に努める。 【重点目標 3】</p>	A	<p>A</p> <p>①コース制の導入に伴い発達段階に応じた教育課程を取り入れ，指導の実践に努めた。また，指導内容・方法の工夫について学部全体の課題として研修に取り組んだ。</p> <p>②③実習に際に企業の方の協力を得ることができた。次年度</p>
		<p>②進路指導部との連携を図りながら，個に応じた職業科の展開を図るとともに，地域人材の有効的な活用を検討する。 【重点目標 4】</p>	B	
		<p>③就労や，卒業後の生活につながる体験学習や作業学習，校外学習を計画的に進める。 【重点目標 4・6】</p>	A	

		④生徒の実態に合った活動内容の検討と継続した交流活動の推進を図る。 【重点目標6】	A	は継続的な活用に努めたい。 ④同年代との交流活動を年2回実施。
		⑤健康の保持増進に向け、運動の時間の確保と部活動の充実に努めるとともに、食育に関する指導を取り入れる。 【重点目標2・8】	A	⑤栄養教諭の協力を得て、各学年、コースに応じた栄養指導を実施
第1学年	発達段階や特性に応じた学習形態や、学習グループの編成、指導内容・方法の工夫と実践に努める。	課題別学習（国語・数学）等では、4つのグループに、体育は学部縦割り3グループに ①	A	A 第一学年はコース制ではないので、学年独自で時間割り等が組みやすかった面があり、指導内容・方法も柔軟に展開することができた。その結果、進路指導、地域の人材活用、校外学習、体験学習なども、個々の生徒の実態に合わせて提供できたものと思われる。今後、細かい点についてさらに見直していけたら良い。
	進路指導部との連携をとりながら、個に応じた職業科の展開を図るとともに、地域人材の有効的な活用方法を検討する。	職業科の学習は、学年・学級で系統立てて行い、来年度以降のコース制に向けての導入 ①②	A	
	就労や卒後の生活につながる体験学習や作業学習、校外学習を計画的に進める。	総合的学習、職業、生単の授業などを通じて、卒業後の生活を考える手立ての一つとして校外学習、校外実習等を活用していく。 ③	A	
	生徒の実態に合った活動内容の検討と継続した交流活動の推進を図る。	多くの人々とのかかわり、豊かな人間性を育むために、学校間交流活動、地域交流活動事業、スクールサポーター制度等を活用していく。 ④	A	
第2学年	一人一人の発達課題や障害の特性に応じて、将来の社会生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能・態度を身につける。	個別の指導計画の目標を明確にし、各コース毎の実態に応じたグループ編成や、形態を工夫し、個に応じた学習を取り入れる。 ①	A	各コース毎の計画により、実態に応じた学習が実践され、それぞれの成果が表れている。 クラス担任と各コー
	卒業後の社会自立・参加			

	に向けて積極的に社会参加しようとする意欲や態度を育てるとともに、進路指導の充実を図る。	一人一人の実態を正確に把握しコース毎の職業学習や現場・校内実習または、生活単元学習の中で、社会生活に必要な力を身に付ける。 ②③	A	A	ス担当者、進路指導主事及び保護者との連携により、進路に関する情報を共有し指導に生かすことができた。 トレーニング、体育などを通して体力の向上と気持ちの安定が図れている。
	健康の保持増進に向け運動の時間の確保と部活動の充実に努めるとともに食育に関する指導を取り入れる。	一人一人の障害の状態や発達段階に留意しながら、体育の学習やトレーニング、部活動を行い、基本的な生活習慣の獲得、体力の向上が図れるようにする。 ①⑤	A		
第3学年	健康や安全に留意し基本的な生活習慣の確立及び健康の増進と体力の向上に努める。	一人一人の障害の状態や、発達段階に留意しながら、基本的な生活習慣の習得、体力の向上が図れるようにする。 ①⑤	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のトレーニング、体育などを通して体力の向上と気持ちの安定が図れた。</li> <li>・実態に応じてそれぞれの課題に即した学習や実習がおこなわれた。</li> <li>・学習だけではなく、余暇の過ごし方を学んだり、調理や実験などからも集団生活での態度やコミュニケーションの力をみにつけてきている。</li> </ul>
	生徒一人一人の実態を的確に把握し、教育的ニーズに応じた指導や現場実習の充実を図り、移行支援につなげていけるようにする。	生徒一人一人の実態を的確に把握し、個々の課題に即した学習内容を設定する。実習先や、保護者との連携を密にしてスムーズに移行支援ができるようにしていく。 ①③	A		
	将来の生活に必要な基礎的な知識や技能・態度、コミュニケーションの力を身につけるようにする。	それぞれの社会自立に向けて、基本的知識や、技能・態度の習得が図れるようにするとともに、集団生活の中で自主的に活動できるよう、様々な場面において指導するように努める。 ①②	A		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

※学年の欄の番号は、各学部の具体的方策にリンクしている。